

早稲田文理専門学校

自己評価報告書 (令和 3 年度)

平成 25 年 3 月文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」

評価項目一覧

1. 学校の教育目標

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

- 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）
- 学校における職業教育の特色は何か
- 社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか
- 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
- 各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか

(2) 学校運営

- 目的等に沿った運営方針が策定されているか
- 運営方針に沿った事業計画が策定されているか
- 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- 人事、給与に関する規定等は整備されているか
- 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか
- 業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3) 教育活動

- 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか
- 教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
- 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
- キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
- 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか
- 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか
- 授業評価の実施・評価体制はあるか

- 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
- 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか
- 関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか
- 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか
- 職員の能力開発のための研修などが行われているか

(4) 学修成果

- 就職率の向上が図られているか
- 資格取得率の向上が図られているか
- 退学率の低減が図られているか
- 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援

- 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- 学生相談に関する体制は整備されているか
- 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- 課外活動に対する支援体制は整備されているか
- 学生の生活環境への支援は行われているか
- 保護者と適切に連携しているか
- 卒業生への支援体制はあるか
- 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6) 教育環境

- 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 防災に対する体制は整備されているか

(7) 学生の受入れ募集

- 学生募集活動は適正に行われているか
- 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 学納金は妥当なものとなっているか

(8) 財務

- 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 財務について会計監査が適正に行われているか
- 財務情報公開の体制整備はできているか

(9) 法令等の遵守

- 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか
- 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
- 自己評価結果を公開しているか

(10) 社会貢献・地域貢献

- 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか

(11) 国際交流

- 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか
- 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか
- 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか
- 学修成果が国内外で評価される取組を行っているか

平成 25 年 3 月文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、令和 4 年 5 月に以下の通り、学校自己評価を実施しました。

1. 学校の教育目標

〈教育理念〉

21 世紀の日本と世界で、新しいビジネスを生み出す、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成する

〈校訓〉

「自主・創造・誠実 ～学び続ける者だけが成功する～」

「自主」とは「自分の頭でものを考え、自らの行動に責任をもつ」こと

「創造」とは「自らの希望と夢を追求し、創造的に生きる」こと

「誠実」とは「人との約束を守り、誠実に生きる」こと

〈教育方針〉

「一人ひとりを大切にし、各人の能力と個性を最大限に伸ばし開花させることを教育の基本とする。授業は“親切・丁寧・わかりやすく”をモットーとし、学生の自主的自発的学びを重視する」

〈教育目標〉

1. 産業界が求める専門知識、専門スキルの修得
2. アイデアをデザインに、デザインを形にできる能力の育成
3. コミュニケーション能力の育成と人間的成長
4. 希望者全員の就職

〈教育課程の編成〉

中央情報学園は、「専門知識」「専門スキル」「ヒューマンスキル」の 3 本柱により教育課程の体系化を図る

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

本年度においては、これまでの教育実践と実績、学校の歴史と伝統を踏まえ、学園全教職員の共通理解と情報共有を図ることによって、教育の充実と質向上、学園の更なる発展に寄与することを目的として掲げた。

1. 授業及び教育課程

① 各業界の求める人材像に沿った体系的なカリキュラムの編成を行う。

- 職業実践専門課程：ゲームクリエイター学科、ビジネス起業経営学科、アプリ・Web 制作学科、電子機器組込みソフトウェア学科、日中越英通訳・ガイド学科に加え、営業マネジメント学科も本年度より認められた。

- 産学連携団体との協業による授業の実施
- ② 学科ごとの教育目標と重点資格を定め、指導を行う。
- ③ 実力テスト（2ヶ月に1回）を実施し、到達目標に対する客観的な達成度を測っていく。
- ④ Microsoft Teams を活用した遠隔授業の実施。
 - 学生が通常授業のエッセンスを効率よく学ぶ
 - 学生自らが主体的に学ぶ習慣を身に付ける
（学生自らが問い、調べ、考え、答えを出す＝正に Active learning そのもの）
 - 学習履歴として、単位認定、進級・卒業判定に活用する

2. 学生指導・支援

- ① 担任、学生指導担当が連携し、きめ細かな学生サポートを行う。
- ② 留学生の受け入れについては、適正校の維持に努める。
- ③ 学校行事を通して積極的に教職員と学生が信頼関係を深めるとともに、楽しい学校生活を送れる環境を作り、出席率は90%以上、退学率は5%以下を目標とする。
- ④ 新型コロナウイルス感染症の流行下においては、学生の状況を100%把握するところから始め、体調に問題のある学生はもちろん、経済的・精神的に不安のある学生を親身にサポートする。

3. 就職

- ① 就職希望者の就職率100%
- ② 卒業式までに内定率を95%以上
- ③ 留学生においてはカテゴリー1の企業に30名以上内定

4. 資格

- ① 学科毎の重点資格の取得
- ② 留学生においては日本語能力試験でN2以上の取得率80%以上

5. 広報募集

- ① 日本人、留学生ともに質が高く、学科内容に意欲ある学生を獲得する。

6. 質保証

- ① 授業の質の向上を目指す
 - 学生アンケートの分析とフィードバックの徹底
 - 教員相互の授業観察の定期的な実施
- ② 教員のスキルの向上を目指す
 - スキルシートの記入と教員面談の実施
 - 定期的な教職員研修会の実施
- ③ 卒業生インタビューの実施
 - 就職先企業担当者からのフィードバック

- 就職説明会などで当校を訪ねてきてくれた卒業生への聞き取り

7. 校務運営

① 組織的な学校運営へ

- 校務運営会議、教務部会、学生指導部会、就職部会を定期的を実施

② Microsoft Teams を活用した教職員間の連携を強化すべく、テレワークの教員を含めた担任会議の実施、勤務形態の隔てなくチャットを活用した通信連絡機会の確保に努めている。

8. 新型コロナウイルス感染症対策

① 教室内外で衛生備品の設置

- 玄関ホール、各教室入口、フロア各所への消毒液ディスペンサーの設置
- 各教室の机へのアクリルパーテーションの配置
- 登校時の全学生への検温実施（体温測定・手指消毒同時測定機器の導入）

② 教室備品の消毒

- 授業の教室入替時及び昼休みに机や椅子等のアルコール消毒を実施
- 授業の入替がある教室の机や椅子等のアルコール消毒を業者に依頼して昼休みに実施
- PC 教室は授業の入替時にマウスやキーボードのアルコール消毒を実施

③ 就職説明会での対応

- オンライン就職説明会の開催
- 対面で実施の場合、会場が密にならないよう間隔を空けての着席
- 企業との面接時はアクリルパーテーションを使用

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
b	学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか	4
c	社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか	4
d	学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	4
e	各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	4

②現状

- 学園創設者の経営理念と教育理念に基づき、教育方針・教育目標は明確に定められている。毎年度4月に学校全体研修会が開催され、その冒頭で岡本理事長より年度の目標が示される。

その後も教職員全体会議や8月の教職員研修会を開催、また年始などの機会を用いて全教職員に徹底している。育成人材像についてはカレッジ制を導入し、各カレッジの専門性での人材像から各学科の専門性での人材像といった専門性を明確に分けることで、より明確に定められている。

- b. 当校の特色は、ビジネスカレッジ・ITカレッジというカレッジ制を導入し、カレッジとしての専門性、そして学科としての専門性を打ち出せる構成である。学科ごとの産学連携だけではなく、カレッジとしての産学連携や学科連携を行い、より実践的な授業かつ横断的なカリキュラムを取り入れている。
- c. 学園の基本理念として、「21世紀の日本と世界で新しいビジネスに挑むクリエイティブで社会に役立つ人材を育成する」ことを掲げており、国際人材の育成として留学生の受け入れを行い、また、社会で役立つ人材育成としてリカレント教育にも力を入れており、社会人の学びなおしが行えるように社会人学生の受け入れを積極的に行っている。
- d. 教育理念や教育目標は、学校 Web サイトや学生募集用の「学校案内」等に明記することを通じ、学生・保護者に周知を図るとともに、学生には入学時および進級時に配布する「学校生活ガイドブック」に記載し、毎年オリエンテーションにて確認している。
- e. 各学科の教育目標や育成人材像に関しては、教育課程編成委員会や連携企業等、業界の方々からのニーズや動向を踏まえ、各学科や就職担当等が企業や業界団体に伺ってヒアリングを行う、研修会やセミナーへの積極的な参加を通して毎年見直しを行うなどして、作成している。

③課題と改善策

- ・特になし

(2) 学校運営

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
b	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
c	運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
d	教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4
e	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
f	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
g	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
h	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

②現状

- a. 学校の運営方針、目的、目標等については明文化されており、それに基づき、副校長、教頭、学科長による定期的な部門長会議・校務運営会議を開催し、目標に沿った運営を進めている。また、この運営方針については学内の教員研修会等で教職員に周知している。なお、令和4年度から、校長・副校長以下の配置移動を予定している。
- b. 事業計画は、運営方針に基づき、毎年関係部門にて作成されており、その進捗状況は各部門長、担当者より月次報告として理事長・校長に毎月提出されている。月次報告の分野別担当者は、年度ごとに検討して選定している。
- c. 理事会・評議員会での意思決定事項は寄附行為について定めており、主要項目については理事会・評議員会にて決定している。日常の業務運営については理事長・校長の下、副校長、学科長、各部門長の責任において、適切な意思決定、組織運営を行っている。
- d. 年度当初に校務分担の中に教務担当、財務担当等を配置し、上司への報告・連絡・相談、稟議書等により適切に意思決定が行われている。
- e. 人事考課制度、給与制度、就業規則等の規定については整備され、定期的に見直しがされている。また、採用募集についても必要に応じて適切に広報が行われている。
- f. 関係法令の遵守のみならず、社会規範の遵守についても、教職員に適時適切に指示・訓示を図るとともに、学生に対しても全校集会・ホームルーム・安全講話等を通じて、きめ細かく指導している。
- g. 本校の概要や教育活動等を広く理解していただくために、「学校基本情報」や「学校関係者評価報告書」「授業計画（シラバス）」等の情報を学校 Web サイトにて公表している。また、学校の行事や各種イベントについては個人情報保護に配慮の上、学校ホームページに随時掲載している。学園理事会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会などにおいても、関係者に対して報告、説明が行われている。
- h. 校内開発システムを、学生の出席及び成績管理、教職員の経費精算などに活用している。昨年度より、Microsoft Teams を利用し、Team 内にて教職員同士の共有化を図り、業務の効率化を推進している。また、学内スケジュールや各教員の予定の確認にはグループウェア「Aipo」を活用、入学試験においても、WEB 出願制度を採用しており、業務の効率化を図っている。

③課題と改善策

- ・法令や社会規範の遵守について、教職員に対しては研修会等を通して意識の更なる徹底、学生に対してはホームルーム等を通して遵法精神がより深く浸透できるような機会を設けているが、

その内容や伝達方法については今後も随時検討を続けていく。

(3) 教育活動

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか	4
b	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
c	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
e	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか	4
f	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
g	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
h	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
i	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
j	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
k	人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	4
l	関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	4
m	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか	4
n	職員の能力開発のための研修などが行われているか	4

②現状

- a. 各カレッジに理念に基づいた目標を設定し、各学科で各人の能力と個性を最大限に伸ばし開花させることを目的とした目標を設定している。また、年度毎に企業および業界団体との会議等を経て、教育課程の編成、実施計画等を策定および見直しをしている。
- b. 毎年開催している企業および業界団体との会議内において育成人材像および業界ニーズを把握し、さらに企業説明会等を通じて学生へのニーズを逐次把握している。その上で各学科に応じた修業年限の教育到達レベルおよび時間を確保している。学生の到達レベルの確認は、2か月に1回行っている「実力テスト」だけではなく、「確認テスト」や「オンライン課題」を実施することで行っている。
- c. 学科毎のカリキュラムは各修業年限における到達レベルの目標を考慮したうえで設定されている。1年次「基礎」、2年次「応用」と設定しており、科目に応じて「基本科目」、「専門科目」

と体系的な構成となっている。また、専門科目でオンライン授業内での課題やテストの取り組みを積極的に行い、特別補講授業などの機会を作り、その中で自学自習できるように動画教材やeラーニング環境を用意している。

- d. 各学科ともに関連分野の企業・業界団体と連携し、企業および業界団体から講師を招聘した科目を開講している。ビジネスカレッジではインターンシップなどが出来る機会を積極的に提供し、ITカレッジでは東京ゲームショウや制作展など企業や業界団体の方が来場していただけるイベントの開催により、学生達が現場の目線での指摘や指導を受ける環境を創出している。また、両カレッジともに卒業制作発表会を実施し、下級生に対しても目標や目的が明確にできる機会を創出している。
- e. 年2回の教育課程編成委員会に関連分野の企業・業界団体からの委員を迎え、客観的なカリキュラム評価・見直し・改善が継続的に行われている。また、学科毎に企業・業界団体の交流会、セミナーや展示会などへの参加や訪問活動を行い積極的に最新の情報収集、また卒業生からの情報収集などにも努めている。
- f. 授業科目は「基本科目」、「専門科目」、「総合科目」と明確に体系化しており、学科毎に体系的に育成する人材像に対して教育を行っている。また、企業等から講師を迎え入れ、各職業教育に対して継続性をもって教育を行っている。その上で、企業を招いた講評会や特別授業の実施を行い、教育効果を高めている。
- g. 授業評価は、非常勤講師を含む全教員が、お互いの授業を観察・評価しあう「ピアレビュー」と、学生による授業アンケートとの2段階構えで実施している。結果については、各教員に個別にフィードバックを行っている。また、教員研修会での授業事例の発表などを行い、評価および検討が出来る機会を創出している。
- h. 年2回の教育課程編成委員会において各委員より評価をいただき、その上で企業および業界団体から招聘している非常勤講師等との講師会議により改善に努めている。また、制作展の開催や東京ゲームショウやコンテストなどに積極的に参加を行い、対外的に外部から評価を受けられるように努めている。
- i. 成績判定会議、進級判定会議、卒業判定会議などの会議が定例的に行われ、評価基準は学則およびシラバスにも記載しており、明確なものとなっている。
- j. 資格取得については学科ごとに目標とするべき資格を定め、カリキュラム上で段階的に取得できるように科目を設定し、授業内で学生に資格試験との関連性などの説明を行っている。また、目標資格については特別授業も実施し、学生の資格取得を支援している。さらに、難易度の高い検定については資格取得への準備段階として「演習授業」「校内検定」等を設定し、学生の到達

度を測る指標の一つとしている。また、オンラインで資格試験の問題を反復して学習できるように、オンライン教材や動画教材などの環境整備も図っている。

- k. 各学科の教員については、専任、非常勤ともに、授業を行う上で必要な専門性、人間性、教授力と業界経験をもとに採用を行っている。また、各学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員の確保が行われており、実務家教員も多数配置している。専任においてはセミナーや研修会等に備えて、授業を行う上で必要な専門性や教授力などの向上を図っている。
- l. 各学科とも業界企業や団体から教員を招聘し、各学科の教育目標や育成人材像を踏まえた授業を行っている。また、実務経験豊富な企業の教員による授業は学生にも好評である。その上で、学内外での研修会やセミナーへの案内や参加を積極的に行い、授業へ活かしている。
- m. 各学科、各教員に必要なと思われる研修などについては、積極的に参加している。また各種展示会やセミナーなどにも関連科目の教員を派遣し情報収集を行っている。そのうえ、報告書や教職員研修会で情報を共有し、各学科の教員の資質向上を図っている。また、企業説明会や企業見学には同行し、企業でも求められている人材などの情報収集を各教員ともにしっかりと行っている。
- n. 関連分野の協会・団体が主催の研修会や会合に参加し、新しい知識・技術、業界の動向等を学習していると共に、教育課程編成委員会を利用して、企業等で利用されている知識等を伺い、知見を得ている。また、半期ごとに教職員研修会を実施し、各職員が参加した研修会の報告をしている。

③課題と改善策

・特になし

(4) 学修成果

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	就職率の向上が図られているか	4
b	資格取得率の向上が図られているか	4
c	退学率の低減が図られているか	4
d	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
e	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

②現状

- a. 就職に関しては、就職部長を中心に学校全体で取り組んでいる。平成 29 年度に開室した就職支援室によって、学生が自由に求人情報の閲覧や履歴書の作成、印刷ができる場所を提供するほか、卒業年次を対象としたメーリングリストも活用、オンライン説明会・面接なども積極的に取

り組むことで、最新の求人情報や説明会、勉強会の情報を平等に共有している。本年度の後半からは少しずつだが求人の動きが活発になってきたようにも思われる。卒業後も継続して就職支援をすることにより、就職率は90%以上を維持している。

- b. すべての学生の資格取得状況は一元管理されており、常に最新の受験状況が確認できるようになっている。昨年度はコロナにより中止の相次いだ検定試験も本年度は次第に復活の傾向にあり、情報の提供や対策講座の開催によって取得率の向上を図っている。また、当校在学中に資格を取得した学生については、校内に顔写真とともに掲示することで、他の学生への意欲づけとなるような取り組みをしている。
- c. 退学率を低減するために、学生指導担当者と担任教員の連携により、現在も継続して個人面談、電話連絡等、きめ細かく行われている。過去の入退学者数推移については、既にデータ化され、明確に管理されている。
- d. 各学科の卒業生は、関連分野の企業等に就職することが出来ており、業界からも学修成果に対して高い評価を得ている。卒業生本人に対しても機会に応じて近況を尋ねるなどしてフォローをしている。在校生にはアルバイト調査・長期休暇時の活動アンケートなどを実施し状況の把握を図っている。
- e. 卒業後は、就職先の担当者からそれぞれの学生に対する評価をいただき、学修成果の把握に努めている。産業界からのニーズを把握し、より実践的な職業教育を実施できるよう、柔軟なカリキュラムを編成している。また、就職担当、担任教員が卒業生の勤務している企業を訪問し、現場を直接拝見したり状況を聴取したりすることで、教育内容に実践的な反映ができるよう努めている。

③卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価について

- ・本年度も、新型コロナウイルス感染防止の観点から、校内イベント・ボランティア活動はできる限り自粛。
- ・両カレッジともに資格取得を充実させ、ビジネスカレッジでは日商簿記検定3級や国内旅程管理主任者、ITカレッジではPython3エンジニア認定基礎試験などの合格者を多数出している。また、コンテストでは一般社団法人コンピュータエンターテイメント協会主催日本ゲーム大賞アマチュア部門では本年は優秀賞を受賞し、第10回専門学校生対象Tシャツデザインコンテスト等へ積極的に参加して、評価を得ている。
- ・本年度もコロナ禍の厳しい環境において、ビジネスカレッジから大王パッケージ株式会社（大王製紙グループ）や株式会社ノジマ、ITカレッジからは株式会社リステックや日総工産株式会社といった企業に就職を決めるなど、専門教育に関して一定の評価を得ることができた。

④課題と改善策

- ・感染防止策として、オンライン設備や教員のテレワーク対応など遠隔による学修管理、成果の向上、学生の自己管理など課題は残っている。卒業後のキャリア形成への効果の把握と学校の教育活動の改善への活用については卒業生への取材・訪問などを行っているが、今後はより洗練された就職指導を対外的にアピールする方法も検討していきたい。

(5) 学生支援

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4
c	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
e	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
f	学生の生活環境への支援は行われているか	4
g	保護者と適切に連携しているか	4
h	卒業生への支援体制はあるか	4
i	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
j	高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4

②現状

- 進路・就職に関する体制は整備されており、就職部が中心となり、個々の学生に対する指導方針を各担任と協議して共有をはかっている。また、就職部長及び各学科の就職担当教員により、隔週で就職担当者会議を開き、進捗状況を互いに把握している。具体的な就職指導（履歴書の書き方、面接対策等）については授業カリキュラムの中に組み込んだり、企業のニーズに合わせた個別の面接演習（個人・集団）を行ったりなどして支援を行っている。複数の企業を招いての「校内合同企業説明会」や、個別に企業説明会等を実施しているほか、平成 29 年度より就職支援室を開室し、求人情報を各担任・学生へと発信、個別の相談にも応じている。説明会・面接試験の参加者についても情報を共有できるよう、全員の見られる就職関係フォルダーにまとめて保存している。毎週月曜日に行われる定例の学科長・担任会議では、就職担当・進学担当教員よりそれぞれ報告があり、全職員へ最新の進捗状況が伝達されている。
- 学生相談については、校長―副校長・教頭―学科長―クラス担任―学生指導担当が連携し、学生一人ひとりに対して親身の話し合いと助言・指導をおこなっている。各クラス担任はクラス全員の学生面談を定期的の実施し、個別に状況を把握している。
- 学費については、本校独自の学費減免制度の他、前期・後期の分納制度を設けている。奨学金に関しては、日本学生支援機構の学習奨励費を活用している。また、本校独自の学習奨励金制度を

設けており、優秀な学生に対し修学を支援している。さらに、学業や社会活動、資格取得など様々な場面で成果を挙げている学生を評価し、学生の意欲を高めることを目的に、表彰制度を設けており、卒業式において表彰を行っている。

- d. 定期健康診断を毎年、学校行事に組み込んで全員に確実に実施している。学校の近隣のクリニックによる定期健康診断を行っており、学生が健康相談等を必要とした際は、このクリニックを利用している。クラス担任や学生指導担当が連携して、必要に応じて病院への付き添い等も行い、日常的に学生の健康管理に留意している。
- e. 卒業旅行、バーベキュー大会、国際文化交流会、芸術鑑賞会等、校内行事は毎年、定期的に授業時間内で実施をしていたが、本年度もそのほとんどを自粛せざるを得なかった。授業時間外のボランティア等の課外活動については、学生からの申し出があれば随時支援をする体制ができており、本年度は近隣の落葉清掃を実施した。また、アルバイトについては、定期的に内容や勤務時間について調査や指導を行い、必要であれば紹介も行っている。アルバイト状況は毎月の調査表に記入させ、学校に保管して個別面談等の資料としても使っている。
- f. 本校と提携した学生寮の紹介を行っている。その他、学生からの依頼があれば、部屋探しの方法を指導している。
- g. 入学が決まった際には、必ず実家の保護者に電話連絡を行っているほか、問題発生時についても随時連絡し、日常生活管理についてのコミュニケーションを密にしている。留学生については、必要に応じて外国語話者の職員が家庭とも連絡をとっている。
- h. 卒業生からの希望に応じ、個別に資格取得や再就職先の支援を行なっているほか、留学生に対しては就労ビザ取得や在留に関する法律的な相談・支援を行うなど、卒業後も継続してフォローをしている。
- i. ゲームクリエイター学科とアプリ・Web制作学科では東京都専門人材育成訓練を実施し、継続的に社会人への学び直しの機会創出を提供している。カリキュラム内容や教育環境の整備については社会人経験者に対して本科生とは別に対応を行っている。新型コロナウイルス感染症の予防等の目的もあり、本年度の社会人向け研修講座は開催されていない。
- j. 本年度は新型コロナウイルス感染症の流行による影響で、高校への出前授業・企業講演・専門高校教員向け技術講座等は実施されず、浦和工業高校へのオンラインによる職種説明会や大宮工業高校のインターンシップ体験を3日間受け入れるにとどまった。

③課題と改善策

- ・就職をした卒業生に対しては、就職先の企業の担当者に協力いただいたうえで、インタビュー

等を実施し、学習成果の継続的把握に努めている。また、母校への帰属意識を高めるため、平成 31 年 4 月には卒業生と学校を連携させたホームカミングデーを開催した。今後も社会情勢と安全に考慮して開催の機会をぜひ検討したい。

(6) 教育環境

①採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
b	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
c	防災に対する体制は整備されているか	4

②現状

- a. 座学教室用の机やいす、実習教室用のパソコン等は定期的に入れ替えており、施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう計画的に整備されている。平成 30 年 3 月に 2 号館の改修工事が完了後、さらなる設備の充実をもって、1 号館と 2 号館の 2 つの校舎で教育を実施している。なお、令和 4 年度に 1 号館の各教室に新しい机を設置する予定がある。
- b. インターンシップに関しては、外部の関係機関と連携し、積極的に実施している。インターンシップ実施時には、校長の許可および教員と先方の企業との打ち合わせが必要であり、すべての学生の実施状況が把握できるようになっている。また、インターンシップ実施後、学生は「研修報告書」、先方の企業は「学生評価票」を作成し、その成果を評価している。また、東京商工会議所発行の『インターンシップ・職場体験ハンドブック』を先方の企業にも提供し、インターンシップを提案するとともに、覚書などの書式もこれに準じたものを使用している。昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響によりインターンシップ実施が危惧されたが、感染予防対策が万全なホテル業で短期間研修することができた。インターンシップは履歴書にも記載できる有益な経験であるため今後も継続する。学外研修については、本年度も同様に実施が困難であったが、例年は学科毎に年 2 回程度実施している。
- c. 教職員による消火訓練の実施、学生の防災訓練を実施している。防災訓練の際、災害発生時における具体的行動のマニュアルを配布し、学生に説明を行っている。
また、1 号館、2 号館ともに AED を設置し、3 日分の災害時備蓄品（水・食料・簡易トイレ・ブランケット等）を確保している。さらに、教職員は順次普通救命講習を受講し、心肺蘇生法の習得、AED を使用できる体制を整えている。

③課題と改善策

- ・特になし

(7) 学生の受入れ募集

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学生募集活動は適正に行われているか	4
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
c	学納金は妥当なものとなっているか	4

②現状

- a. 学生募集は入学希望者およびその保護者のニーズに対して適切に行われている。
東京都豊島区学事課の指導及び東京都専修学校各種学校協会の申し合わせ事項を守り、個人情報の取り扱いや入学願書受付期日等に留意し、適正に実施している。各学校に対して教職員向け説明会や訪問等を行い、アドミッションポリシーに合う学生の募集を行っている。また、同様にオープンキャンパスやガイダンス等で希望学生に対して情報を提供し、遠方の学生などにはオンラインで同時開催を行って適切な人材確保に努めている。さらに、Facebookでの発信やYouTubeを利用して体験授業や学科紹介の動画掲載など情報発信を行い、希望学生にわかりやすい情報を提供している。
- b. 学校案内、募集要項等については毎年改訂を行っており、最新の情報を提供している。
各学校への進学説明会等においても、最新の教育内容や教育成果を伝えている。オープンキャンパスでは学科ごとの入学から卒業までの教育内容やカリキュラム、卒業後の進路状況、それに伴うフォロー体制について説明を行い、同時に実施する体験授業によって学科の特色と入学後の実習教育の内容をわかりやすく示し、自分がやりたい勉強が出来るかどうかの判断を正確にできるようにしている。当校卒業生の出身校に向けては、就職結果などの報告を行い、入学から卒業までの学習内容、生活態度、卒業後の進路などの情報共有を行っている。また、DX化として学校案内や募集要項等をデジタル化し、遠方の希望者に対して、資料請求等への負荷を減らし、スムーズな情報収集が出来るような環境整備を行っている。個別相談に関しては近隣・遠方に関わらずオンライン面談を推進し、説明機会を増やすことで教育成果等を正確に伝えることが出来るように改善している。
- c. 学納金については、入学金、授業料、施設設備費等すべてを募集要項に明記している。都内の近隣の専門学校と比較しても非常に低く設定しており、特待生制度、留学生減免制度などといったサポートも充実させている。入学辞退者については、辞退理由と時期に応じた規定によって、適正な返還処理を行っている。2020年度4月から実施された高等教育の修学支援新制度の対象機関としても認定されている。

③課題と改善策

- ・今後進むであろうwith コロナにともない発生するオフライン化の流れと、メタバースなどを活用した更なるオンライン化への対応が課題。

(8) 財務

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
c	財務について会計監査が適正に行われているか	4
d	財務情報公開の体制整備はできているか	4

②現状

- a. 財務基盤は計画的に強化され、安定したものとなっている。その結果、負債比率、負債償還率は文部科学省の大学設置基準の財務基準をクリアしている。
- b. 予算、収支計画は無理のない実現可能な計画を策定しており、予算と実績間に大きな乖離は発生していない。
- c. 会計監査は、実務に精通した元事務局長を監事とし、監査を厳正かつ適正に実施している。
- d. 決算完了次第最新の財務情報をホームページ上に公開している。

③課題と改善策

- ・特になし。

④特記事項

- ・情報公開については、学校法人単位での公開となっている。

(9) 法令等の遵守

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
b	個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
c	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
d	自己評価結果を公開しているか	4

②現状

- a. 寄附行為・経営理念・教育理念等において法令や専門学校等設置基準の遵守を明記しており、定期的な教職員研修会等の実施時に周知徹底を図っている。学生に対しても厳格に法令を遵守させるべく、ホームルームでの指導及び管轄の目白警察署による安全講話を行っている。特に留

学ビザを所持する外国人留学生に対して日本の法令等を理解させ、遵守を継続していけるよう、今後もひきつづき積極的に啓発を促していく必要がある。

- b. 個人情報保護方針にもとづいて各種対策を実施している結果、個人情報漏洩事故は発生していない。また、マイナンバーの取扱については極めて厳格な対応を行っている。学生に対しても、行政機関等ではマイナンバーによる情報連携・個人の識別や認識が行われていることを周知徹底している。
- c. 自己評価にあたっては、学校長を委員長とする「校内自己評価委員会」が中心となり、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」（平成 25 年 3 月）により、毎年定例的に実施している。自己評価結果に基づき、関係教職員は問題点の改善に努めている。
- d. 学校自己評価報告書及び学校関係者評価報告書は、学校の Web ページに掲載することにより公開している。

③課題と改善策

- ・個人情報の取り扱いについては、今後も教職員にプライバシーポリシーについて周知徹底を図っていく。また学生に対しても、学校内外において日本の法令を守って社会生活を送ることの重要性を、学生指導部・担任を通し継続指導していく。

(10) 社会貢献・地域貢献

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
b	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
c	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3

②現状

- a. 本校は多様な分野の学科を持つことから、多方面にわたる教育機関や企業・団体と関わりを持ち、交流を図っている。管轄の目白署・豊島区・北区・東京都生活文化局・地元の地域活動団体や養護施設など協力先も増え、各方面でのボランティア活動に積極的に参加し、地域貢献に取り組んできた。
- b. 学生のボランティア活動に関しては大いに奨励をしており、学生の参加意識も非常に高まっている。毎年、目白警察署および特別養護老人ホームとの協力による避難訓練実習、学校近くの高南地区「区民ひろば」との協力による地元のお年寄りとの交流活動や地域のまつりにも参加している。現在はコロナ禍の状況もあり自粛しているが、12月に近隣の明治通り歩道の落葉清掃を行った。

- c. 開校前の平成 21 年度より東京都の委託を受け、再就職を目指す社会人の職業訓練を実施し、IT、医療、簿記等の分野で高い成果を挙げてきた。平成 30 年度からゲームクリエイター学科、令和 3 年度からアプリ Web 制作学科の 2 学科で東京都専門人材育成訓練を実施し、社会人の学びなおしの機会と教育環境を拡充した。

③課題と改善策

- ・社会貢献の意識を持った学生が増え、奉仕活動への参加意識は高まりつつけている。本年度は 1 度だけの活動であったが、「また機会があれば参加したい」という学生の意見も出ている。今後も社会情勢や公衆衛生の状況を精査した上で、是非とも復活させていきたい教育活動のひとつである。

(11) 国際交流

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか	4
b	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
c	留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	4
d	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

②現状

- a. 留学生については、募集活動以外にも留学生の在籍学校と連絡を密にし、日本語能力、基礎学力だけではなく、適性、学費支弁能力、資格外活動状況等もしっかりと確認した上で受け入れを行っている。平成 28 年度、平成 30 年度、平成 31 年度には、日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先を決める「日本留学 AWARDS」を受賞した。この経験を活かし、留学生にとって満足度の高い学校づくりに励んでいる。
- b. 留学生については、募集要項に則り、筆記試験のほか、個別の面接を重視した選抜を行っている。入学後も学則、法令の遵守および日本での生活も含めて指導している。在籍管理については文部科学省、東京入国管理局、豊島区への報告を正確かつ遅滞なく行っている。
- c. 学生の学修・生活指導については、クラス担任と学生指導担当が協力して、継続的な面談や日々の声かけ等で留学生とのコミュニケーションに努めている。また、毎週の学科長・担任会議や校務運営会議において学生動向について情報の共有化を図っている。
- d. 育成人材像をもとに学修成果を評価するしくみは学科ごとに作られており、その一つとして資格試験で日商簿記検定や国内旅程管理主任者、Python3 エンジニア認定基礎試験で合格者を出し、また学外のコンテストへの参加を積極的に行い、一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会主催日本ゲーム大賞アマチュア部門では本年は優秀賞を受賞し、学校として 2018 年

以来の 2 回目の受賞となった。その他にも一般社団法人東京都情報産業協会主催 IIT アプリアワード 2021 や彩の国さいたま ICT コンテスト 2021、第 10 回専門学校生対象 T シャツデザインコンテスト等へ参加を行った。それ以外でもインターンシップに積極的に参加をして、学習成果を表現している。

③課題と改善策

- ・学修成果が国内外で評価される取組みについては、学校ホームページ、Facebook 等を活用して情報発信を行なっているが、今後は、LINE や YouTube 等、より多様な媒体を活用した情報発信を検討している。